昭和51年10月5日
広報あじす　毎月5日
お知らせ版　毎月20日　発行

山口県吉敷郡阿知須町
発行 阿知須町役場
電話4111番㊥・〒754—12

印刷 阿知須砂郷よしの印刷

広報あじす

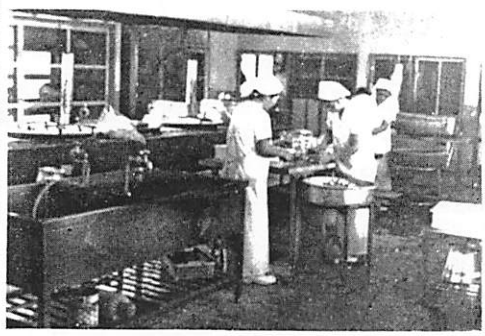
No.299

町の住民登録人口
（51年9月30日現在）前月比
世帯　2,121世帯　＋1
人口　8,209人　−12
（男3,870人　女4,339人）
（国勢調査　昭和50年10月1日）
世帯　2,113世帯
人口　8,137人
男3,771人　女4,366人

給食の研究指定校に
〝米飯〟の課題と取組む

食欲の秋を迎えて、食い気さかりの児童・生徒にとっては学校給食も楽しみの深いところですが、本町の学校給食はどのような方向に進んでいるのでしょうか、学校給食について考えてみましょう。

本町の小学校の給食費は現在、小学生一日百三十円、中学生百五十円、小中学校三校に配分している調理は学校給食センター（所長一、栄養士一、調理員四人）で処理し、小中学校三校に配分しているものです。


給食センターの内部

学校給食の進め方についてこれから重点的に研究していこうというものです。当面の問題として、米飯給食、つまり、ごはんを給食にとり入れることが大きな課題となっています。

年度当初の計画では、二学期から週二回米飯給食をする予定でしたが、業者の計画が変り、九月は一回だけでした。

つまり、米飯給食をはじめると、この、本町の給食センターが九月に県の学校給食指定校（県下で小中各一校と阿知須）になりましたが、これまで、脱脂粉乳だった値段が高いのは難が多いからです。

給食センターは多額の施設をせねばならないため、宇部市内の業者に委託することで話を進めてきました。

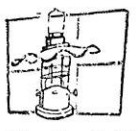
そのときの話合いでは、業者は二学期からできるとの回答だったわけですが、宇部市内の学校給食の計画がはっきりしないため、阿知須だけ（千食程度）ということになり、これでは施設しても採算にのらないので見通しがつくまで設備はしないということになったわけです。

このため、町給食センターでは当分、副食をつくっているカマを利用して炊くことにしました。

こうして馴れると次第に回数を増やす予定で、十月は三回、十一月にはさらにふやすことにしています。

つまり、米飯給食をはじめると、この秋、

町史編さん室だより⑦



阿知須浦と廻船（一）

毛利氏の一門である石田毛利が佐波郡に領地を与えられたのは、寛永一年のことである。この年に落は給土の知行替を行ない、石田毛利氏も熊毛郡三氏から石田を中心とする佐波郡、美祢郡綾木村、阿武郡奈佐村をあわせ一万三千石を給わった。

さらに貞享三年には、海辺に領地を得たいという希望から、佐野浦人の壇那寺を持ちたいという願望から落も引寺を許可したと思われる。また村による引寺は、村落の成立過程においてしばしばみられ、この点、享保の頃、村の一部を落地として阿知須浦三一四石を支配することとなった。これより阿知須浦は石田の給地となり、給庄屋、畔頭の任命、その他年貢収納の体制が整えられていった。

藩政時代の初期から中期にかけての浦の様子は『地下上申』にうかがうことができるが、享保七年には東岐波村から本龍寺を引寺している。

本龍寺の建立について、すでに寺西彦兵衛の話が語りつがれ、彼の建立になると、さらには建立にいた逸話が伝えられている。彼個人の建立はともかくとして、藩体制の内にあって、個人の力によって引寺がかなうものではなく村落構造に何らかの変化があったと推測される。

さて、浦と廻船についていつ頃から結びつきがみられるようになったのであろうか。記録としては天保末年に六十艘の廻船がいたことが記されている。廻船数については、毎年藩に報告することが義務づけられていたので、もっと早くから船数を把握できるはずであるが、今のところ石の記事が最初である。

◇　◇　◇

学びましょう

学びました

○―働きざかりにある人たちの体力づくり研修会が九月二十八日夜、中学校体育館で開かれました講師は藤沢菊治氏（県教育庁保健体育課長・前阿知須中学校長）と今橋靖力氏（同指導主事・山口国体の相撲教員の部優勝者）の二人参加は「はってんくらぶ」（町内事業所経営者有志）と青年同志会員ら約三十名。

藤沢氏は講義で「心身一如、つまり、心と身体は一体である。しかしいつも、一体では健康を阻害する。だから時には心と身体をきり離すことも必要である」と前置きして次のように説明しました。

○―①まず熟睡②食事は落着いて③大衆になる。野球などわれを忘れて応援するのもその一つ④酒以上）②足ぬき一手を前に組み、片足ずつぐらぐらたり、抜いたりなども効果がある⑥勝負ごとにも熱中しよう。碁、将棋そして、スポーツもよい。しかし、ギャンブルなど余りにもコリ過ぎる身を破滅する②楽い、ユーモアを解そうう⑧集団への参加、よい集団、グループづくりを⑨身体を適当に動かそう。

○―どうすることによって頭の切り替えができる。さらに、若々しい身体を保つために「姿勢を正しくしよう」。アゴを引けば姿勢はよくなり、アゴが出れば背骨がまがる。戦後の日本人の平均身長は十㌢も伸びた。しかし、姿勢が悪くなった。姿勢は心の現われである。心得たいことである。

○―今橋氏の指導は体力づくりの実技。「働きざかりの人は背のびの運動をよくしよう」といい、身体に合った運動を毎日続けてしよう、あなたのからだの動きは？とテストの方法も指導しました。

○―①息とら鼻をつまんで息をとめる（30代男子25秒、女子15秒以上、50代男子15秒女子10秒以上）②足ぬき一手を前に組み、片足ずつぐらぐらたり、抜いたり（40代男女両足を入れ、また逆にも熱中しよう。碁、将棋そして、スポーツもよい。しかし、ギャンブルなど余りにもコリ過ぎる身を破滅する②楽い、ユーモアを解そうう⑧集団への参加、よい集団、グループづくりを⑨身体を適当に動かそう。

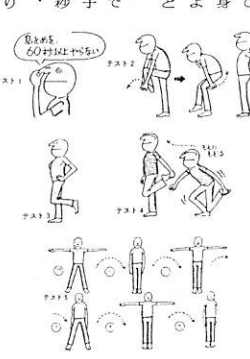
○―①まず熟睡②食事は落着いて③大衆になる。野球などわれを忘れて応援するのもその一つ④酒以上）②足ぬき一手を前に組み、片足ずつぐらぐらたり、抜いたりなども効果がある⑥勝負ごとにも熱中しよう。碁、将棋そして、スポーツもよい。しかし、ギャンブルなど余りにもコリ過ぎる身を破滅する②楽い、ユーモアを解そうう⑧集団への参加、よい集団、グループづくりを⑨身体を適当に動かそう。

○―どうすることによって頭の切り替えができる。さらに、若々しい身体を保つために「姿勢を正しくしよう」。アゴを引けば姿勢はよくなり、アゴが出れば背骨がまがる。戦後の日本人の平均身長は十㌢も伸びた。しかし、姿勢が悪くなった。姿勢は心の現われである。心得たいことである。

○―今橋氏の指導は体力づくりの実技。「働きざかりの人は背のびの運動をよくしよう」といい、身体に合った運動を毎日続けてしよう、あなたのからだの動きは？とテストの方法も指導しました。

○―①息とら鼻をつまんで息をとめる（30代男子25秒、女子15秒以上、50代男子15秒女子10秒以上）②足ぬき一手を前に組み、片足ずつぐらぐらたり、抜いたりなども効果がある⑥勝負ごとにも熱中しよう。碁、将棋そして、スポーツもよい。しかし、ギャンブルなど余りにもコリ過ぎる身を破滅する②楽い、ユーモアを解そうう⑧集団への参加、よい集団、グループづくりを⑨身体を適当に動かそう。

○―どうすることによって頭の切り替えができる。さらに、若々しい身体を保つために「姿勢を正しくしよう」。アゴを引けば姿勢はよくなり、アゴが出れば背骨がまに＝カット参照



町文化祭〃一万人のつどい〃

十一月一日から　展示会や芸能祭

町、文化祭・一万人のつどい・実行委員会と町教育委員会主催の・町民文化祭・がつぎのとおり開催されます。一般の観覧を歓迎します。

日時　十一月一・二・四・五・六・七日、午前九時から

会場　町役場

催し　作品展、芸能、のど自慢大会、バザー（うどん、パン等を販売）

作品展の作品およびのど自慢大会の出場者募集要項はつぎのとおりです。

▽作品展の搬入、日程

一日　あじのす大学生作品搬入　九時～十二時　展示準備十三時～

二日　あじのす大学生作品見学　一般作品の搬入（生花、盆栽は四日午前中に搬入）

三日　休み

四日　一般作品の展示準備　五日～七日　一般作品見学期間（▽芸能大会の日程

九時～十六時まで）

二日　あじのす大学生芸能大会　十三時半～十六時半まで

七日　一般芸能大会午前～十六時

●出品予定▽園児（絵画・はり絵）▽小中学生（絵画・書道）▽公民館学級生（洋裁・レタリング・料理）▽一般（写真・書道・絵画・手芸・盆栽・趣味）▽青の阿知須町民俗写真▽あじのす大学生（版画・彫芸・園芸・盆栽等）

●作品展応募期限　十月十六日（点数を町教育委員会へ

●のど自慢大会＝芸能大会の中で行う。出演希望者は十月十六日までにつぎの曲目から選曲し町教育委員会へ連絡してください。

出演者にはもれなく参加賞、合格者には賞品を贈る。

のど自慢曲目▽シクラメンのかほり▽十七の夏▽センチメンタル

目標は五十二万七千円

〃赤い羽根〃ただいま募金中

ことしも十月一日から一か月間共同募金が行なわれます。

生活に恵まれない人たちにあたたかい援助をお願いしています。みなさんのご協力をお願いします。

なお、集ったお金は一応、県共同募金会に集められ、そのうち各市町村の生活保護世帯、県下の養護施設、老人ホームなど民間福祉施設に配分されます。

郵政省では預けられた資金が豊かなくらしと住みよい国づくり町づくりに大きな役割を果たしていることを理解してもらおうと、十月を「豊かなくらしと住みよい社会をつくる郵便貯金」の強調月間としています。

貯金は、常に国民の経済生活に結びついて広く利用されています預けられた資金は国の財政投融資の主な原資として各方面に融資され、学校・病院の建設、公害防止、道路・鉄道等建設、中小企業農林漁業の近代化など、福祉の増進や公共資本の充実に大きな役割を果たしています。本町でも一億五千万円借りています。

このように、貯金が国民の生活環境の改善に役立っていることを広く理解してもらうため協力を味びかけているものです。

郵便貯金で豊かな国づくり

十月は強調月間

急患は当番医で診療を

日曜・祭日は休診

医療機関は日曜・祭日には休診することになっています。その代り、地区の医師会で当番医を決め急患の場合は、そこで診療します

阿知須町は吉南医師会（四辻、小郡、秋穂、嘉川、阿知須）に属し、この地域内で当番医を決めていますので、もし、急患が出た場合は、そこで診療を受けましょう

当番医は次のとおり。

〔10月〕

▽10日　同仁病院（内科）

▽17日　新井医院（〃）

▽24日同仁病院（外科）

▽31日佐藤医院（内科）

〔11月〕

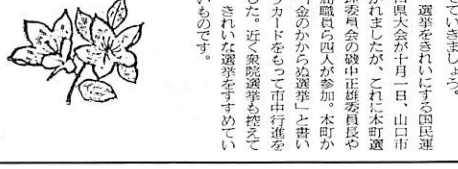
▽3日共立病院（内科）

▽7日共立病院（外科）

これ以外は町内では診療を受けることができません。もし、急患が出た場合は役場か、病院等でおたずねください。

なお、宇部市内の当直医（外科は役場で判ります。内科、小児科は、毎週、福祉会館で診療します

役場の窓



◆・九月下旬の球技、婦人バレーボール大会は参加選手六百名、手伝い、応援など含むと約千人。二世帯と約千人の参加という盛況でした。

◆・選挙をきれいにする国民運動山口県大会が十月一日、山口市で開かれましたが、これに本町選挙管理委員会の磯中雄委員長や事務局職員ら四人が参加。本町からは「金のかからぬ選挙」と書いたプラカードをもって市中行進をしました。近く衆院選挙も控えており、きれいな選挙をすすめていきたいものです。

練習は役場の広場を利用されたチームも多かったようですが、休力づくりと和づくり、結構なことです。役場のコートを大いに利用ください。

◆・本ページの「学びました・学びましょう」欄で指摘されているように、姿勢の悪い人がめだっています。中学校の運動会をみた人たちの多くは「生徒たちが行進する姿勢が悪い」と感じた人も多いようです。胸を張って歩む少年は、毎週、福祉会館で診療します

ただいま五、八八八人

選挙人名簿の定時登録者

本町の九月一日現在の選挙人名簿登載者（有権者）は五千八百八十八人です。このうち男子は二千六百七十六人（四五・四％）、女子は三千二百十二人（五四・六％）

公職選挙法では毎年九月一日を定時登録日としておりの本町に住居があって、本町の住民基本台帳に名前が載って三か月以上たっている人②この日現在で満二十歳以上③日本人、の三つの要件を備えた人を基本選挙人名簿にのせることになっています。

昨年同期に比べて十二人増。選挙があるときは、これ以降の死亡者、新有権者、住居要件などをみて補正し、それが選挙時の有権者になります。

総合で飛沖三連勝

町内球技大会

第二十五回町内親睦球技・婦人

▽中の島ブルース▽瀬戸の花嫁▽黄色いリボン▽赤ちょうちん▽妹（かくや姫）▽木綿のハンカチーフ▽泣けタイヤキ君▽ロマンス▽ポケットいっぱいの秘密▽恋人試験▽山口さんちのツトム君▽赤いハイヒール▽面影▽春一番▽夏が来た▽夏に御用心▽君といつまでも▽旅人▽ビューティフルサンデー▽北の宿から▽二人でお酒を▽心のこり▽わたし祈ってます▽女のみなりせんせい▽星影のワルツ▽背まで愛して▽私の城下町▽千曲川▽その他のフォークソングについては自主演奏での出演は認める。

施設に配分されます。

みんなの広場

あなたの文芸作品やご意見、お気づきのことなど未発表のものをお寄せください

短歌

小西　平海アサノ

港にひしめきてをり

徳本　喜一

畑仕事すれば林は蝉しぐれ精出しをれは汗ふきいつる

小西　藤重アヤ子

微風に細波わたる瀬戸内に鰯釣る舟のならびて見ゆる

小東　松尾　君代

ひき母の野良着借りて草刈りぬ汗ふく袖に母しのばるる

北祝　原田　双恵

朝まだき長道傍の蓮田に白き花一つ咲きて静けし

砂三　桜井　文子

箸もつ手正しく持てと娘に云えばなおらぬものをと食うをめたり

浜　正司ウメノ

叱りても叱りても尚幼孫サルビヤの密余すなく吸う

慶弔録

出生（おすこやかに）

父	続柄	子の名	月日	部落
岡部洋三	二女	宏美	8・31	源河
辻岡泰造	二男	俊治	9・17	岩辻
猪野勝一	長女	真由美	9・15	浜

婚姻（おしあわせに）

横山　忠	千葉県四街道町	磯部　博巳
鈴木（福田）	築地	末重　トリ
網田　繁（篠原）	耀北	中谷アサコ
真弓　宇部市西岐波		長久　靖

死亡（ご冥福を祈ります）

氏名	月日	年令	部落
砂三　桜井　文子	9・1	23	砂三
砂三　桜井　文子	9・13	79	耀北
砂三　桜井　文子	9・14	58	北祝
砂三　桜井　文子	9・20	12	前山
砂三　桜井　文子	9・21	79	寺河内
耀北　砂一　照美（堀）山口市岩山			
岡村康雄　美祢郡美東町			
兼重　キヌ　ツヨ子（古谷）浜表			

小西　藤重アヤ子

区長の家に文書配ると青柿のあまた落ちたる路地晴れてゆく

岩西　中本　幸枝

いたわりついたわられつつ勤む日々夏風邪ひきて咳やまぬ娘と

岩西　中本　満枝

友と楽し書道合宿海見ゆる青年の家に技競いをり

砂三　渡辺　宮子

調理室の窓に止まりて法師蝉の鳴きいる午後をステレス磨く

河内　磯中　忠一

妻病む吾れも病みて二年老見舞来る子ら淋しく笑う

浜　石田サダ子

登り来し城跡は海の匂ひしてくすれし塀になずな萌えをり

砂三　浜崎　恒子

夕くれの海辺に来たり娘とはしし幼心に戯れてをり

砂三　藤永ミツノ

盆踊り津和野みやげの笠かぶり踊りて賞に預いただく

飛石　砂村ヤス子

夫待ちて遅き夕餉の菜園の青紫蘇採りぬ花もまじえて

砂一　松代　二郎